



小井戸 真人 議員

## 平成27年度の 地方交付税の 見通しは

### 平成27年度予算の 編成方針

**問**合併特例期間終了後となる平成27年度の地方交付税の見通しは。

**答**先行きが不透明であるが、今までの状況から地方交付税は約8億円程度マイナスの140億円程度を現状では試算している。

**問**平成27年度予算編成方針の「選択と集中」の課題は。

**答**合併特例期間の終了や人口減少などにより、地方交付税や市税の減少が予想され、行財政状況がますます厳しくなると思われる中で、これまで以上に選択と集中という視点を意識しなくてはならないと考えている。

### 子育て支援について

**問**子ども・子育て支援新制度によってどういった影響があるのか。

**答**子どもの年齢や親の就労状況により、市町村が保育の必要性の認定を行い、利用可能な施設を決定することとなるため、保育園などの入所手続きが変更になることや、保育園等の利用料算定に用いる税額が所得税から市民税に変更されることなどがあげられる。

**問**私立保育所を経営する法人から提出された私立保育園への支援の充実を求める要望に対する市の考えは。

**答**子ども、子育てに対する支援の質と量の改善を目的とする新制度への移行であるが、安

定的な保育園の運営をすすめていただくことは重要なことであることから、法人に対する支援については国県の動向も注視しながら、検討をしていきたい。

**問**児童発達支援事業を指定管理者に移行しようとする目的は。

**答**意欲とスキルのある民間の力を活用することを目的として方針を決定したものである。

このことにより、どの地域でも一層充実したサービスが利用できるものと考えている。

### 江名子川の治水対策

**問**県から示された江名子川河川改修計画の内容は。

**答**短期計画として10年に一度発生する規模の洪水を想定した河川改修を行うとともに、中期目標として30年に一度の洪水を想定した河川改修や調節池の整備をすすめる計画となっている。



倉田 博之 議員

## 「健康づくり」で 特典ゲット!!

### 市民の自主的な健康 増進活動への誘導

**問**運動や検診などをポイント化し物品やサービスと交換できる「健康ポイント制度」を多くの自治体が独自で行っていたが、国は制度を導入する自治体に補助金を出して全国に推進する方針を固めた。

**問**健康寿命の延伸には個々の自主的な健康づくりへの取り組みが不可欠。やる気を引き出す「動機づけ」に対し、市の意識と現状は。

**答**検診や運動に楽しく長く取り組める仕組みが大切。健康まつりなどでアピールしていく。

**問**「健康ポイント制度」を導入し、市民の健康づくりを促進していく考えはないか。

### 人工内耳装用者の支援

**問**有効性や地域性などを研究し、国保加入者受ける制度を検討する。

**問**健康増進に有効で医療費削減にも効果的な水中運動は、その機能確保が望まれているが新たな検討結果は。

**答**半年前と同じ状況。引き続き検討する。

### 人工内耳装用者の支援

**問**人工内耳は聴覚の補助器具で、補聴器では不十分な方に有効。体内埋め込み装置と体外器とで一体。手術は数百万円かかるが医療保険対象で本人負担は少額。一方で体外器の更新・修理・維持費も高費用だが公的支援はなく、本人負担が大きい。

**問**国と連動した市の

「補装具扶助制度」は、義肢や補聴器など不自由な身体機能を補完する用具への助成である。人工内耳がその対象外であることに違和感や不公平感はないか。

**答**「人工内耳は医療機器で、その外部機器は単体では機能しないので補装具ではない」との県の見解だが、それが妥当かはもう少し研究させて欲しい。

**問**人工内耳の助成を独自に行っている自治体は多数ある。何とか高山市も単独で補助対象とできないか。

**答**やらないということではなく他の障がいや身体的悩みなどの均衡から、支援を総体的に考える時間が欲しい。



人工内耳装用者として初のノーベル賞を受賞したマアラさん